

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2019年1月15日

【2019年1月5日～2019年1月11日までの推移】

【1】先週の回顧

ブラジル・レアルは、対円、対米ドルともに上昇しました。また、2年国債金利は上昇しました。パウロ・ゲデス経済相が最新の年金改革法案を近日中にボルソナロ大統領へ提出すると報じられたことが好感されました。

現時点では、年金改革法案はまだ公表されていませんが、労働者自身がある程度の積み立てを行うことが求められるとみられています。また、複数の地元紙によると、最新の年金改革法案の歳出抑制見込み額は当初予想されていた額を大幅に上回る見通しであり、年金改革への期待が膨らんでいます。

経済指標に関しては、12月のIPCAインフレ率や11月の鉱工業生産などの発表がありました。12月のIPCAインフレ率は前年比3.75%と11月の同4.05%からさらに低下しました。また11月の鉱工業生産は、前年比で市場予想を上回る下落となり、景気回復が緩やかなペースに留まっていることを印象付ける内容となりました。

【2】今週の見通し

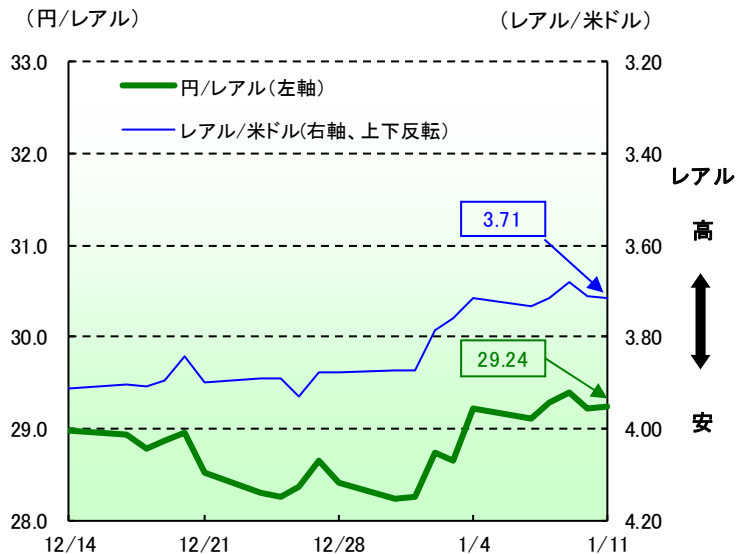
今週は、小売売上高や経済活動指数などの経済指標の発表が予定されています。

足元ボルソナロ政権は長らく停滞しているインフラ投資の活性化に向けて、インフラプロジェクト承認に係る条例改正にも注力しています。インフラ投資が活性化されれば、景気回復にも追い風となるため、具体的な動きがみられれば、市場の注目を集めると考えます。

年金改革については、足元様々な観測記事が出ていますが、年金改革の進展は議会の始まる2月以降までははっきりしないため、投資家はそれまで待ちを強いられそうです。

【ブラジル・レアル 為替推移】

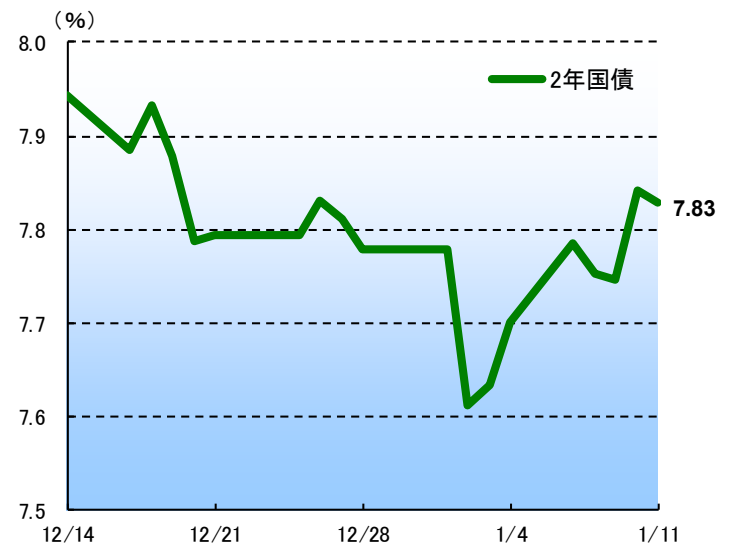
(2018年12月14日～2019年1月11日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

(2018年12月14日～2019年1月11日)



※2年国債の指標債の入れ替えがあったため、先週のレポートと金利水準が異なります。
(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>